

## 台灣美化協会様との ご縁に感謝

岐阜県 秋山 浩司



私は当時関東の他の会社で働いており、友人の田中会長の娘さんを通して掃除を知り、築地市場のトイレ掃除に初参加しました。一か所を長時間かけて掃除するのはすごいと思いました。その後彼女と結婚し、2009年田中会長の会社に入社、すぐ台湾に2年駐在しました。

言葉の習得を含む海外ビジネスや台湾の電子業界の勉強、さらに掃除の日台交流などが、私のミッションでした。

さて、台湾美化協会の年次大会は、1年前から協賛企業や団体が役割分担し準備を始めます。

将来に繋がる根を張った倒れない良樹(企業)となれるよう、しつかり取り組みを続けます。

台湾のスタッフは、中国語と日本語の対応や日台の習慣の違いなども意識しながら、企画に意を尽くします。前日の交流会から人で盛大に行なわれます。

掃除実習、そして日本の皆さんが帰国の途につくまで、心を込めて対応してくれます。今の日本では経験できないようなおもてなしにより、日本の参加者は感動して台湾のファンになります。

私は2018年、43歳で田中社長の後を受けました。

「良樹細根」当社では日々掃除やメンテナンスに取り組み、30年以上活用している設備もありますし、今の社風には掃除が大きく影響しています。お陰さまで2019年に設立50周年を迎きました。

(509-7201岐阜県恵那市大井町630-1)

## 日本を美しくする会 30周年にそえて

ブラジル  
飯島秀昭



語、多種民族で宗教はカトリックベース、考え方は狩猟民族的、そしてカトリックと、日本と真逆の文化ベースを持つ国です。

1995年、大阪の友人に誘われて、第1回大阪掃除の会に折に、掃除道を提唱する鍵山秀友人3人と参加しました。その三郎氏と出逢いました。

日本の会社社長が便所掃除するというセンセーショナルな出来事に、テレビ、新聞、雑誌等のメディアも殺到し、ただ呆然としたことを覚えていてます。

さらに、2005年ブラジル掃除の会第10回大会を兼ね、第1回世界大会を開催できました。

30周年、心よりお喜び申し上げます。

「このフィロソフィーを是非、  
ブラジルでも」と鍵山氏にお願い  
しましたら、「では1年以内にブ  
ラジルに行かせていただきます」  
が、ブラジル掃除に学ぶ会発足の  
キッカケでした。

フレシルと言っても日本の方々には遠すぎて、馴染みのない国だと思います。日本の真逆に位置し、日本から約2万km離れています。

翌1996年、第1回ブラジル掃除に学ぶ会を開催できました。日本より十数名のご参加を得て、サンパウロのイブラップエラ公園の便所掃除をおこないました。

を救うのは農耕民族的な、  
会の会のような地球を大切に隣人  
を愛するような思想こそが未来  
に繋がるからだと思います。  
掃除の会のグローバルな発展  
を心からお祈りいたします。

に繋がるからだと思います。

## 鍵山先生の 生き方・考え方について

愛媛県 小野 晋也



きなものがあると思います。

しかし私は、鍵山先生の偉大

さは、周辺環境を美しく保つ「掃除」ということだけにあるのでは

ないと思っています。普遍的な人間の生き方・考え方を広く多くの人たちに示した「伝道者」でも

あつたと思うのです。

具体的には、「自分が取り組むべきことに対する全身全霊をかけて、それに取り組むことの大切さ」や、「まずは自分自身が、大きく成長することの大切さ」を示し

て、「そこから他の人たちを導こう」と考え続けてきた人だという気がします。

鍵山秀三郎先生といえば、一般には「掃除の神様」として語られことが多いよう思います。日本全国、さらには世界各地に、自らが体を動かし、汗を流して、掃除することの大切さを広めたというご功績には、極めて大

歩んでこられたのではなかつたでしょうか。

つまり、私の目には、「掃除という手段」を用いて、実は、「人々の心と頭の掃除と整理整頓」を求めて続けてこられた人ではなかつたかという気がしているのです。

先生は、ご高齢のため体が不如意の中でも、みんなと掃除ができないならば、せめてと、多くの方々に手紙を書いておられるをお聞きしています。(現在はお書きになりません)

この誠意には、ひたすら頭が下がります。人間が持つ可能性を信じて、自分ができることを最後まで貫き通そうとしておられるその真摯なお姿に、心から深く感動いたしました。

鍵山相談役に学んだ

「丁寧な生き方」

滋賀県

かなもと

幸久

物の取り扱いが雑で、すぐに壊し  
おらず、自己管理ができません。  
則正しい生活習慣が身に付いて  
吐くなどしていました。また、規  
常的に暴力を振るつたり暴言を

か、どのようにすれば良かったのかなどの振り返りを行い、児童の立場に寄り添つて一緒に考えるようしました。



丁寧な生き方を身に付けるなど、前の大失敗だけでも精一杯で、児童がとても無理なのではと感じていました。

そんなとき、2006年「京都掃除に学ぶ会」年次大会で鍵山相談役に出会いました。その前に本など読んでいましたので、感動

私は児童福祉に携わる仕事をしています。児童に丁寧な支援を心がけ、児童自身が丁寧な生き方を身に付けることが必要だと考えていました。

しかし、対象児童は虐待を受けてきたことで粗暴性が強く、日

生き方」を生かそうと考えました。それは、児童の話をよく聴い

童にとって、きれいで整った環境が当たり前になれば、丁寧な生き方が身に付くことに繋がると信じます。

これからも、鍵山相談役に学んだ「丁寧な生き方」を生かして、児童の生活の向上、社会的自立に貢献していきます。

## 出逢い

宮崎県

亀田  
かめだ

高秀  
たかひで



てすぐ玄関に貼つて家族にもわかるようにします」というと、鍵山さんは正座してビールを注ぎながら、「貼らなくていいんです。自分がやればいいんです」とにこやかに答えた。話を理解していくなかつた自分を恥ずかしく思った。それからは、子どもたちを叱つていたことがウソのよう、自分でやるようになつた。

朝のゴミ拾い散歩が20年経つた。それ以前は、分別されない未回収のゴミを見て文句を言つていた。しかし、自分で分別し直してみると、満足が得られた。

「その時の出逢いが人生を根底から変えることがある。よき出逢いを」(相田みつを)

2001年の鍵山秀三郎さん

との出逢いがこれだった。

夕食時「履物をそろえる」のボ

スターをいただいた。私は、「帰つ

官の私でも、私服のときは注意す

るのに勇気がいるんです。でもあなたのがみを捨う姿を見て、私もと思ったんです」。鍵山さんが、掃除の功德として挙げるお釈迦様の「自心清浄、他心清浄」であった。

私の勤めたコーポみやざきのトイレもきれいになつていった。「トイレがきれいだから生協に行く」「深呼吸できるトイレに出会つた」という便りが届くようになつた。2012年から毎年、「ゴミゼロの日」にお店や事業所周辺を、1000人以上で清掃している。

鍵山哲学は、職場の方針や実践にも大きく影響し、2019年、コーポみやざきは「日本で一番大切にしたい会社」の一社に選ばれた。鍵山さんとの出逢いに心から感謝している。

(880-2113 宮崎県宮崎市小松台北町20-4)

## 私にとつての掃除

三重県

竹内

宏幸



たけうち ひろゆき

かつた些細なことに気が付くようになりました。たとえば、グラウンド整備で片付けと準備の境界がなくなりました。先のことを考えて、準備と片付けは繋がつているとと思うようになったのでしょうか。「片付け」「前準備」という考え方です。次に使う人の気持ちを考えるということは、生徒の心に響いたようです。

私が「掃除」について深く考えるきっかけをいただいたのが、日本を美しくする会です。私は野球部の顧問をしています。部活動で、掃除を通じて生徒が変わつていく様子を見てきました。生徒は、掃除をすると雰囲気が変化しました。今まで気が付かなか

うになりました。たとえば、グラウンド整備で片付けと準備の境界がなくなりました。先のことを考えて、準備と片付けは繋がつているとと思うようになったのでしょうか。「片付け」「前準備」という考え方です。次に使う人の気持ちを考えるということは、生徒の心に響いたようです。

傲慢だった生徒が、何かしてもらうと、感謝の気持ちを示すようになりました。自分が感謝することと、感謝されることを経験して、少しずつ感謝の意味がわかるようになつたのだろうと思ひます。

掃除には人を動かす力があると感じます。掃除は自分が発する言葉よりも大きな何かを持つています。掃除をしたからスポーツ

の技術が向上するわけではありませんが、先々大きな力になると信じています。

私は掃除を通じて、自分が謙虚になります。生徒を謙虚にしたいという思いがあります。ですが、葛藤もあります。この文章を書いている最中でも、心のどこかで掃除を「道具」として捉えている自分がいます。

教えていただいたことを実践したい。成功したことも失敗したこと、すべてやらせていただいてよかったです。まだ、掃除について分かっていないとはいえませんが、いずれ「掃除とはこういうものだ」と自信を持って言える日が来ることを願つて、掃除を続けていきたいと思います。

## お掃除と私

### 「一つひとつ身について」

徳島県 藤村 良枝



以外、第1回からずっと参加しています。その間の6年事務局を担当し、他県の学ぶ会や台湾美化協会様にも参加して、大変有意義で楽しく過ごさせていただきました。もし、鍵山先生、学ぶ会、

鍛谷代表に出会えてなかつたら、別の人生を歩んだと思います。

元来私はお掃除好きでしたが、会で17年間お掃除を続けて、かなり成長があつたと思います。早起きは苦手で、極寒の日は辛いときがありました。が、今や行くのが当たり前になりました。そして、会社や自宅のトイレ掃除は毎日しており、近所の草取りやゴミ拾いはさつとできます。

掃除だけでなくあらゆることがさつとでき、その場で処理できている気がします。

(770-8003 徳島市津田本町4丁目3-45)

秀三郎先生の「掃除を通じ心の荒みのない社会にしたい」との思いを受けて、2005年鍛谷幸一代表世話人が設立、2022年7月で、205回となりました。

私は、一度熱を出して欠席した

鍵山先生の「凡事徹底」「ひとつ捨えば一つだけきれいになる」を、鍛谷代表は「ひとつで良いから何かを続けて」、「できればそれを増やして」と、導いてくださいました。

何をしても長続きしない私は、壁に「継続は力なり」と貼り紙をしていましたが、今はその必要はありません。一つひとつ身につき、それらが自然と継続できて、段々心が強くなつた気がします。なりたい自分に近づいているよう思います。

まだまだ勉強不足ですが、これからも「凡事徹底」を継続していきます。この素晴らしい出会いに感謝しています。

# 大切なものは目の前にある

広島県 吉盛 真治



ら始める。

私は、これまでいくつかのボランティア活動をしてきたが、きっかけはいつも妻だった。夢拾いも初めに妻が参加し、「とてもいい人たちだったよ。一緒に参加しない?」と誘われ、私の座右の銘は「頼まれごとは試されごと」なので、このときの返事も「はい、喜んで」であった。

翌週から、当時3歳と0歳の子どもを連れて参加し、メンバーの温かいご支援もあって、家族全員が楽しみながら少しづつ成長できた4年間だ。

私たち家族が「夢拾い」を始めて4年になる。「夢拾い」とは、街の夢(ゴミ)を拾い、キレイにすることで、子どもたちに平和で幸せな未来を実現する清掃活動である。毎週土曜の早朝4時45分か

の夢を拾うことは、特別な技術や才能がなくても誰にでもできる一方、誰にでもできないことがある。歩いているときに、拾うかどうか迷っていると、通り過ぎてしまう。他人の視線も気になるが、勇気を出し直ぐ決断する必要がある。日々の実践で、決断力と行動力が磨かれる。

私は引っ込み思案で、自分から他人に話しかけたりできない性格だったが、夢拾いをきっかけに、困っている人や初対面の人にも、声をかけることができるようになった。

夢拾いを通して実感したことには、目の前の夢を拾うことが「目の前の人・ものと向き合い、大切にすること」に繋がり、世界を変える力があるということだ。道端